

武庫川流域委員会
松本委員長様

以下について意見書を提出します。よろしくご協議下さい。

2006/08/30
委員 田村博美

第49回武庫川流域委員会以降について

1. 8月提言書提出以降の委員会としての対応

委員会の提言を受けて河川管理者が「基本方針原案」「整備計画原案」を作成し、流域委員会に答申(?)される予定ですが、その間何度か内容についての調整(すりあわせ)が必要と思います。

また、基本方針作成段階と整備計画作成段階がずれることも十分予想できます。これらのことを踏まえて今後の流域委員会の活動頻度と対応方について協議しておくことが必要と思います。

私は、これまでのような数多くの委員会開催でなく拡大運営委員会のような形で簡潔かつ重点的な対応策を提案します。

2. 武庫川カルテ作成部会の設立と活動

まちづくりWGで提言した「武庫川カルテ」はあくまで試行的段階のものです。これをとりあえず完成状態にする必要があります。

武庫川やその沿川のまちや自然について実地体験しながらより武庫川について知る、武庫川と沿川の状況をまとめ、公表することにより、流域住民や武庫川に関心のある人々に武庫川との関係をより高めてもらう、武庫川の今後の整備にあたり、周辺関係者に武庫川と地域のことについてより理解を深めてもらう、「武庫川カルテ」を武庫川散策やハイキング、地域学習に役立ててもらい、カルテ作成を通じて人と人、人と地域や文化、自然のつながりを広める。等々多様な効果があると思います。

提言では、武庫川流域圏会議(仮称)を発足しその中で「武庫川カルテ」の発行を行うということにしていますが、8月提言提出後速やかに実施に移すことを提案し、了解を頂きたいと思えます。

3. その他すぐできることの整理と実践

上記以外にも提言内容に基づきすぐにも実践できることやしなければならないことが数多くあると思います。例えば「武庫川塾ネット」の調査とネットワーク化、「川まち交流拠点」の予備検討などです。これらについて、委員会終了を待っていては時期を失します。できれば以降の運営委員会(形は変化しても良いが)で協議し、流域委員会としてできることは進め、できないことは別の実施手法や形を探り進行させる必要があると思います。

また、河川部局の予算が厳しいのであれば県民局サイドや環境サイドの予算で手当するということもありますし、流域市が進んで予算化するということがあります。

以上のご検討をお願い致します。